

2025年度 シラバス

科目名	美容技術理論	区分	必修	授業時数	90時間	対象学年	1年
担当教員	阿部 泉 岩本 大野 奥田 尾崎 木下 清水 中西 中村 藤本 吉川 渡部	実務経験	有				
学修内容	美容技術理論の理解、国家試験合格						
到達目標	美容師国家試験合格および前後期筆記試験で60点以上必達						
授業の方法	美容技術理論の教科書を用いて、板書、解説、確認テストなど行う						
成績評価の方法と基準	前後期各1回の筆記試験にて評価を行う。試験は100点方式をもって採点し、60点以上を合格とする。成績評価はA, B, C, Dで表し、A, B, Cまでを合格として履修を認定する。Dは再試験を受けなければならない。						
授業時間外に必要な学修の具体的内容	特になし						
実務経験に基づく授業内容	美容師の経験を基に、接客するうえでの立ち振る舞い、技術力はもちろん技術に対する理論の知識を深め、より良い施術を提供できるよう、また社会人としてのマナーや意識も身に付くよう授業に取り込んでいる。						
使用教材	教科書（公益社団法人 日本理容美容教育センター）美容技術理論1						
履修に当たっての留意点	技術理論で学んだことを、さらに実習に取り組み理解を深めるようにする						
各コマにおける授業計画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	序章	美容理論と美容技術					
第2回		美容技術における作業姿勢、美容技術に必要な人体各部の名称					
第3回	第1章美容用具	美容技術における用具、コーム					
第4回		ブラシ、シザーズ					
第5回		レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド					
第6回		ローラー、ヘアアイロン					
第7回		ヘアドライヤー、ヘアスチーマー、遠赤外線機					
第8回	序章・第1章	復習・小テスト					
第9回		復習・小テスト					
第10回		復習・小テスト					
第11回	第2章 シャンプーイング	シャンプーイング総論					
第12回		シャンプーイング総論					
第13回		サイドシャンプー、バックシャンプー					
第14回		リンス、コンディショナー、トリートメント					
第15回		リンス、コンディショナー、トリートメント					
第16回		スカルプトトリートメント					
第17回		スカルプトトリートメント					
第18回		ヘッドスパ					
第19回		復習・小テスト					
第20回		復習・小テスト					
第21回		復習・小テスト					
第22回	第3章ヘアデザイン	美容とデザイン 錯覚現象					
第23回		美容とデザイン 錯覚現象					
第24回		美容とデザイン 錯覚現象					
第25回		美容とデザイン デザインの要素					
第26回		美容とデザイン デザインの要素					
第27回		美容とデザイン デザインの要素					
第28回		美容とデザイン デザインの原理					
第29回		美容とデザイン デザインの原理					
第30回		美容とデザイン デザインの原理					

2025年度 シラバス

科目名	美容技術理論	区分	必修	授業時数	90時間	対象学年	1年
担当教員	阿部 泉 岩本 大野 奥田 尾崎 木下 清水 中西 中村 藤本 吉川 渡部	実務経験	有				
学修内容	美容技術理論の理解、国家試験合格						
到達目標	美容師国家試験合格および前後期筆記試験で60点以上必達						
授業の方法	美容技術理論の教科書を用いて、板書、解説、確認テストなど行う						
成績評価の方法と基準	前後期各1回の筆記試験にて評価を行う。試験は100点方式をもって採点し、60点以上を合格とする。成績評価はA, B, C, Dで表し、A, B, Cまでを合格として履修を認定する。Dは再試験を受けなければならない。						
授業時間外に必要な学修の具体的内容	特になし						
実務経験に基づく授業内容	美容師の経験を基に、接客するうえでの立ち振る舞い、技術力はもちろん技術に対する理論の知識を深め、より良い施術を提供できるよう、また社会人としてのマナーや意識も身に付くよう授業に取り込んでいる。						
使用教材	教科書（公益社団法人 日本理容美容教育センター）美容技術理論1						
履修に当たっての留意点	技術理論で学んだことを、さらに実習に取り組み理解を深めるようにする						
各コマにおける授業計画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第31回	第3章ヘアデザイン	復習・小テスト					
第32回	第4章 ヘアカッティング	復習・小テスト					
第33回		復習・小テスト					
第34回		ヘアカッティングとは、シザーズとレザーの扱い方、美容刃物					
第35回		ヘアカッティングの正しい姿勢、美容刃物					
第36回		ヘアカッティングの基礎理論					
第37回		ベーシックなカット技法					
第38回		シザーズによるカット技法					
第39回		シザーズによるカット技法					
第40回		レザーによるカット技法					
第41回		レザーによるカット技法					
第42回		復習・小テスト					
第43回		復習・小テスト					
第44回		復習・小テスト					
第45回	第1～第4章	復習・小テスト					
第46回		復習・小テスト					
第47回		復習・小テスト					
第48回	第5章 パーマメントウェーピング	パーマメントウェーブの歴史と現在					
第49回		パーマメントウェーブの理論、パーマ剤の分類					
第50回		パーマ剤に関する注意事項					
第51回		パーマメントウェーブ技術①～⑦					
第52回		パーマメントウェーブ技術⑧～⑯					
第53回		ワインディングのバリエーション、縮毛矯正					
第54回		復習・小テスト					
第55回		復習・小テスト					
第56回		復習・小テスト					
第57回	第6章 ヘアセッティング	ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェーピング					
第58回		ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェーピング					
第59回		ヘアカーリング①～⑤					
第60回		ヘアカーリング⑥～⑨					

2025年度 シラバス

科目名	美容技術理論	区分	必修	授業時数	90時間	対象学年	1年
担当教員	阿部 泉 岩本 大野 奥田 尾崎 木下 清水 中西 中村 藤本 吉川 渡部	実務経験	有				
学修内容	美容技術理論の理解、国家試験合格						
到達目標	美容師国家試験合格および前後期筆記試験で60点以上必達						
授業の方法	美容技術理論の教科書を用いて、板書、解説、確認テストなど行う						
成績評価の方法と基準	前後期各1回の筆記試験にて評価を行う。試験は100点方式をもって採点し、60点以上を合格とする。成績評価はA, B, C, Dで表し、A, B, Cまでを合格として履修を認定する。Dは再試験を受けなければならない。						
授業時間外に必要な学修の具体的内容	特になし						
実務経験に基づく授業内容	美容師の経験を基に、接客するうえでの立ち振る舞い、技術力はもちろん技術に対する理論の知識を深め、より良い施術を提供できるよう、また社会人としてのマナーや意識も身に付くよう授業に取り込んでいる。						
使用教材	教科書（公益社団法人 日本理容美容教育センター）美容技術理論1						
履修に当たっての留意点	技術理論で学んだことを、さらに実習に取り組み理解を深めるようにする						
各コマにおける授業計画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第61回	第6章 ヘアセッティング	ローラーカーリング					
第62回		ブロードライ					
第63回		アイロンセッティング					
第64回		バックコーミング、アップスタイル、ウィッグとヘアピース					
第65回		復習・小テスト					
第66回		復習・小テスト					
第67回		復習・小テスト					
第68回	第7章 ヘアカラーリング	ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類					
第69回		ヘアカラーのタイプ別特徴					
第70回		染毛のメカニズム、色の基本					
第71回		毛髪レベルとアンダートーン					
第72回		パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項					
第73回		ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順①～③					
第74回		酸化染毛剤の技術手順④～⑧、酸化染毛料の技術手順、ヘアブリーチ					
第75回							
第76回		復習・小テスト					
第77回		復習・小テスト					
第78回		復習・小テスト					
第79回	第1～第7章	テスト対策					
第80回		テスト対策					
第81回		テスト対策					
第82回		テスト対策					
第83回		テスト対策					
第84回		テスト対策					
第85回		テスト対策					
第86回		テスト対策					
第87回		テスト対策					
第88回		テスト対策					
第89回		テスト対策					
第90回		テスト対策					

2025年度 シラバス

科目名	美容技術理論	区分	必修	授業時数	60時間	対象学年	2年
担当教員	阿部 泉 岩本 大野 奥田 尾崎 木下 清水 中西 中村 藤本 吉川 渡部	実務経験	有			コース	全コース
学修内容	美容技術理論2の解説 美容技術理論の1及び2の総復習						
到達目標	美容師国家試験合格および前後期筆記試験で60点以上必達						
授業の方法	授業は講義を中心として行う。パワーポイント、教科書を使い解説。						
成績評価の方法と基準	前後期各1回の筆記試験にて評価を行う。試験は100点方式をもって採点し、60点以上を合格とする。成績評価はA, B, C, Dで表し、A, B, Cまでを合格として履修を認定する。Dは再試験を受けなければならない。						
授業時間外に必要な学修の具体的内容	特になし						
使用教材	教科書（公益社団法人 日本理容美容教育センター） 美容技術理論2						
実務経験に基づく授業内容	美容師の経験を基に、接客の上でのポイント、言い回し方法、その時の印象を決める表情、声のトーン振舞い方など実践の経験を踏まえて事前のカウンセリング、アフターカウンセリングの大切さ等を授業に取り込んでい						
履修に当たっての留意点	理論で習う美容用語を、実践で使用できるよう共有化している。理論で出る技術を実際に作って目で理解できるようにしている。						
各コマにおける授業計画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	第8章 エステティック	1、エステティック概論 2、皮膚の生理と構造					
第2回		3、カウンセリング 4、美容におけるマッサージ					
第3回		5、フェイシャル技術 6、フェイシャル及びデコルテマッサージ					
第4回		7、フェイシャルパック					
第5回		8、ボディークア 9、ボディーマッサージ					
第6回		復習プリントと解説					
第7回	第9章ネイル技術	1、ネイル技術概論 2、ネイル技術の種類					
第8回		3、爪の構造と機能 4、爪のカット形状					
第9回		5、ネイル技術と公衆衛生					
第10回		6、カウンセリング 7、ネイルケア					
第11回		8、アーティフィシャルネイル					
第12回		9、手と足のマッサージ					
第13回		復習プリントと解説					
第14回	第10章メイク	1、メイクアップ概論 2、顔の形態学的な観察					
第15回		3、メイクアップと色彩					
第16回		4、皮膚の生理と機能					
第17回		5、メイクアップの道具 6、スキンケア					
第18回		7、ベースメイクアップ					
第19回		8、アイメイクアップ 9、アイブロウメイクアップ					
第20回		10、リップメイクアップ 11、ブラッシュオンメイクアップ					
第21回		12、まつ毛エクステンション					
第22回		復習メイクと解説					
第23回	第11章日本髪	1、日本髪の由来 2、各部の名称					
第24回		3、日本髪の種類と特徴 4、日本髪と調和					
第25回		5、日本髪の装飾品 6、日本髪の結髪道具					
第26回		7、日本髪の結髪技術					
第27回		8、かつら					
第28回		復習メイクと解説					
第29回	第12章着付けの技術と理論	1、着付けの目的 2、礼装					
第30回		3、着物と季節					

2025年度 シラバス

科目名	美容技術理論	区分	必修	授業時数	60時間	対象学年	2年
担当教員	阿部 泉 岩本 大野 奥田 尾崎 木下 清水 中西 中村 藤本 吉川 渡部	実務経験	有			コース	全コース
学修内容	美容技術理論2の解説 美容技術理論の1及び2の総復習						
到達目標	美容師国家試験合格および前後期筆記試験で60点以上必達						
授業の方法	授業は講義を中心として行う。パワーポイント、教科書を使い解説。						
成績評価の方法と基準	前後期各1回の筆記試験にて評価を行う。試験は100点方式をもって採点し、60点以上を合格とする。成績評価はA, B, C, Dで表し、A, B, Cまでを合格として履修を認定する。Dは再試験を受けなければならない。						
授業時間外に必要な学修の具体的内容	特になし						
使用教材	教科書（公益社団法人 日本理容美容教育センター） 美容技術理論2						
実務経験に基づく授業内容	美容師の経験を基に、接客の上でのポイント、言い回し方法、その時の印象を決める表情、声のトーン振舞い方など実践の経験を踏まえて事前のカウンセリング、アフターカウンセリングの大切さ等を授業に取り込んでい						
履修に当たっての留意点	理論で習う美容用語を、実践で使用できるよう共有化している。理論で出る技術を実際に作って目で理解できるようにしている。						
各コマにおける授業計画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第31回	第12章着付けの技術と理論	4、着物の色々					
第32回		5、帯					
第33回		6、小物 7、着物各部の名称					
第34回		8、着物のたたみ方 9、着付けの一般的要領					
第35回		10、留袖着付け技術 11、振袖着付け技術					
第36回		12、帯締め、帯揚げの結び方 13、男子礼装羽織袴技術					
第37回		14、羽織の紐の結び方 15、女子袴着付け技術					
第38回		16、婚礼着付けの際の注意事項 17、和装花嫁					
第39回		18、洋装花嫁（ウエディングの知識）					
第40回		復習メイクと解説					
第41回	技1、技2	復習プリント					
第42回		プリント解説					
第43回		復習プリント					
第44回		プリント解説					
第45回		復習プリント					
第46回		プリント解説					
第47回		復習プリント					
第48回		プリント解説					
第49回		復習プリント					
第50回		プリント解説					
第51回		復習プリント					
第52回		プリント解説					
第53回		復習プリント					
第54回		プリント解説					
第55回		復習プリント					
第56回		プリント解説					
第57回		復習プリント					
第58回		プリント解説					
第59回		復習					
第60回		模擬テストプリント					